

大分県現代俳句協会句会報

第17号

令和4年4月25日再発行

【令和4年 第1回雑詠句会選句号】

令和4年度の第1回雑詠句会には64名から192句が寄せられました。現代俳句大会の募集の時期と重なり、投句数を揃えるのが大変だったと思います。心よりお礼を申し上げます。

令和四年、第一回雑詠句会の投句作品集

- 1 菰卷や大樹に二人抱きついて
- 2 悴む手まずは新聞俳句欄
- 3 春キャベツもうすぐ羽化が始まり
- 4 幸せのところどころに石薔の花
- 5 答えない問いばかりして水凍る
- 6 つま立ちて孫見送りぬ秋の暮
- 7 今日を泣き今日を笑って晦日蕎麦
- 8 過ちを赦すがごとく鹿啼けり
- 9 列島に安保と九条北塞ぐ
- 10 逝く秋を追いかけていく一人旅
- 11 帰省子とひらがなのような日が過ぎる
- 12 春を着るヘルパーさんの身の軽さ
- 13 正月やよそ行の服着せられて
- 14 蘆の角河川工事の轍あと
- 15 兜太かなおいと顔出す春の山
- 16 短日に急かされ畑の早仕舞
- 17 自分史を留じ込めながら恵方巻
- 18 日だまりににんまりと在り冬すみれ
- 19 きさらぎの峽は傾きつつ明ける
- 20 寒林檎独り居の部屋明るうす
- 21 アクセルをぐいと踏み込み冬に入る
- 22 祭りくる短日だからと自治会長
- 23 納豆の糸もてあます雪の朝
- 24 炬燵の火消せど動かぬ猫の意地
- 25 大寒や我慢がまんの寿司を喰む
- 26 有り体に生きて蠍螂枯れゆけり
- 27 石薔の群れるあたりで母を待つ
- 28 カーテンを閉め短日の筆進む
- 29 冬すみれ生涯産土しか知らず
- 30 春連峰電柱いっぽん鏝する
- 31 ことば尻つままれている日短
- 32 日向ぼこする野良猫の倦怠期
- 33 満ち欠けは世の理コロナも冬の月
- 34 枯野には九尾狐が住むという
- 35 水の星あちらこちらで水温む
- 36 もういいかいはいもういいよ露の臺
- 37 いぬふぐり待つて父の田手放せり
- 38 短日の週間予定やりくりす
- 39 太平洋戦争歴史の学び枯野道
- 40 とがった目の少年手袋に穴
- 41 弟を見舞う四人へ冬日射す
- 42 財布から寒くなりたる老年期
- 43 開戦日百三歳の記憶聞く
- 44 ばかヒタキ馬鹿こそよけれ寄添える
- 45 木守柿感謝のしるし十個ほど
- 46 倦怠のかたちに割れる鏡餅
- 47 ラ・メールと言う名のカフエ冬鷗
- 48 火の心いだき続けている氷
- 49 れんげ田に座れば昭和香りくる
- 50 寒声や海に向かえば父がいる
- 51 海鼠勝のこの呼び方が私好き
- 52 クリスマス祈る背後にミサイルが
- 53 もう母を許すと決めた日の薄
- 54 足元の幸わせここにも桜草
- 55 又死かよトラクターの運転手
- 56 大根やまあるく擦ればまるい味
- 57 春めくや母のもんぺに上つ張り
- 58 老人冬の一樹の象かな
- 59 足音は皆それぞれに枯野道
- 60 雪解けの峽は迎える米寿かな
- 61 蓄えた色は何色冬木立
- 62 湯豆腐をつつきこのごろ人嫌い
- 63 虎落笛平和のきしむ音かしら
- 64 干し柿の具合を探る指の先
- 65 お出かけ日マフラー手袋同じ色
- 66 結ばれしみくじの花や風に咲く
- 67 野菊一枝挿して鎮もる猫の墓
- 68 高階に鬼も来ぬなり鬼は外
- 69 蹉跎なお記憶の瀬に悴めり

70 埋火のその哀切を友とする
 71 短日や家路に向かう笑い声
 72 嘆^{なげ}してうわさの中にある私
 73 月光の冬木のなかの母眠らず
 74 ライン機器駆使する僧ら十夜寺
 75 山眠るコペルニクスのてのひらで
 76 日を追えば地震の怖れ遠霞
 77 手袋を外してきみと手をつなぐ
 78 すかんぼや昭和すっぱし今も尚
 79 六郷の仏うとうと菜種梅雨
 80 春月や草屋に母の丸き椅子
 81 オミクロン完封するや冬至風呂
 82 寒菊のまがりし枝は老いの味
 83 冬空を押し上げ隣家の棟上る
 84 冬晴れに最後の笑顔撮り終える
 85 寒風に離農の友が語りだす
 86 猫の背に注射針刺す冷たさよ
 87 石ひとつ鴨一羽つつ日を迎ゆ
 88 悔しいわ齡と賀状の反比例
 89 みどり児の両手がつかむ寒の空
 90 ラジオから昭和の演歌山眠る
 91 野ぶどうの朽ちたる青を手に取り
 92 生と死のリズムとこしえ花吹雪
 93 去年今年笑いの絶えぬ文殊かな
 94 土つきの大根提げて立ち話
 95 語り継げ戦火の惨状開戦日
 96 すんなりと言葉出てこずおでん煮る
 97 田を守る使命一筋草を抜く
 98 いちだんときこえないのか春のみみ
 99 春隣り相田みつをの言葉かな
 100 指切りのあの頃いくつ桜貝
 101 まっすぐな木ばかり数える寒という

102 米をとぐメニューもやがて冬至かな
 103 錆びてなお昭和を語る斧始め
 104 突きぬけた壁の向こうや大旦^{おおだん}
 105 着ぶくれて他人の顔になつて
 106 寒夕焼波の向こうは戦の火
 107 着膨れて中はとりとよい女
 108 手袋が用途別にて先進国
 109 片言の会話の弾むお年玉
 110 ポインセチアのまっ赤な嘘を見抜けない
 111 希望とはするものなり涅槃^{ねはん}西風
 112 アフガンの一隅照らす冬の月
 113 霜焼けの我が手姉の手炊事の手
 114 手袋をはめて気がつく右左
 115 狐火のただよふはわが妬心かな
 116 海に出て葬列につく鰯雲
 117 明日逢えるかすかな予感冬菫
 118 蒲の穂の揺れてかすかな偏頭痛
 119 望みまだおぼろに揺れる春隣
 120 廃村に打ちひしがれた枯野かな
 121 円周率みたいに続く蟻の列
 122 永ふや幾千萬の踏絵して
 123 ニッポンの人流老いて鳥帰る
 124 左手の手袋命ナイスオン
 125 倒れたる皇帝ダリアに冬の蜂
 126 短日やコロッケ売り切れの貼り紙
 127 今日限り別れる石路の花ざかり
 128 落葉掃き一葉一葉の声を聞く
 129 短日の斜陽引つ張る釣りマニア
 130 残り香やシートに二本木の葉髪
 131 鮮魚台霜降りカマス狙ひおり
 132 世界中厳戒体制オミクロン

133 トラ年の父生きたれば一〇八歳
 134 友からの荷亡母の荷に似て秋いっぱい
 135 埋めつくす今朝の小道の濡落葉
 136 小春日の布団取り込む腕輕し
 137 海小春厄介ものの輕い石
 138 見得を切る歌舞伎役者の菊人形
 139 時惜しむ晴耕雨読おちばはき
 140 河辺には緋鯉の姿今朝二匹
 141 春眠を黄泉^{よみ}の寢床にして逝きぬ
 142 空高くそういえば秋開放感
 143 人生は算数ですねお月さん
 144 大根を抜きて白さよ有難う
 145 手袋を脱げば老いたる指と甲
 146 漂泊の吾がゆく道は枯母郷
 147 大いなる虹に包まれ息ひとつ
 148 春茶漬け女の本音匂わせて
 149 まんじゅしやげ三味線抱いて瞽女^こ二人
 150 菊月夜あはす母の手すきとほる
 151 音も無く皆で右向く枯れ尾花
 152 秋バラやアリス招きてお茶にする
 153 牡丹愛で経読むような尼僧さま
 154 春来れば後期高齢仲間入り
 155 秋天に愚図つく心解放す
 156 十一の宝の笑顔去年今年
 157 夕暮れの棚田放棄地芒^{すすき}揺れ
 158 散り初^{はじ}むる金木屋や陣屋跡
 159 冬めきし川原に鶯^うの声渡る
 160 ふるさとの村は枯野に天の風
 161 父の亡き部屋に尺八律^{りつ}の風

逝きし子の齒ブラシ乾く半夏生
ただ窓に雲見て暮らす秋の午後
ようやくと庭に出番の菊香る
青葉騒をまだ吐き出して亡き子の口
長いものに巻かれてたまるか春の雷
木枯しが隙間だらけの村抜ける
休刊日手持ちぶさたの秋の空
掌の中の愁いはひとつ柿日和
パラマラの伴に走りし愛の紐
嘘をつく夜は冷たき膝頭
冬麗の久住高原風立ちぬ
予後ならば会話かみ合ふ秋夜長
四極山小猿を抱き山眠る
今年こそ家族七人旅したい
秋夕焼今在る幸に手を合わせ
冬の田にヒッチコックかカラス舞う
先取りのお洒落のブーツ秋暑し
老ひという魔物に對峙秋の暮
上弦の月に誘われ玖珠に入る
生きている命の限り冬の蝶
雲遙か夫背をまるく野老掘る
迎え火を揺らして帰る茄子の馬
グータッチ今年の秋の流行語
秋茄子の至福色なり句友仲間
虫時雨亡き子の無言のやかましき
廃校に金次郎ある春休み
冬花火老いてゆく日々照らし出す
南瓜煮る母の背中の豊かなる
生も死も日のささげたる菊の酒
産卵の鮭や命をつなぎ果つ
冬芒よもつひらさか徒歩なほ

以上

以上192句の選句・選評を

お願いします。締切5月11日（水）

◆10句選十選評を別紙の投句用紙で

今回の句会報第17号は、事務局のミスで再発行することになりました。最初は第32会大分県現代俳句協会総会の議案書に同梱したのですが、会員からの指摘で作品の一部が抜け落ちていたことが判明しました。これは、パソコンに打ち込んだフォルダのうちのひとつが誤って見過ごされていたためです。このフォルダには、21人、63句が収録されていました。あり得ないような単純ミスで本当に申し訳ありません。

この「句会報第17号再発行版」が正式な17号になります。前回お届けした分を破棄してください。さるようお願い致します。

《選句方法》

●前回届いた分でまだ選句を済ましていない方は、今回の正式版で通常通り選句をお願いします。選句締切は5月11日（水）です。

●すでに選句用紙を提出した方は、追加の選句をお願いします。作品番号1番から129番までが前回の紙面に載った作品です。この分はすでに7句選をしていただきました。今回は130番から192番までの63句の中から3句を選んでください。

●もちろん全192句の中から、10句を新しく選び直してもかまいません。前回の投句用紙と今回の投句用紙に違いがあれば、今回を優先します。

●選評も今回を優先します。追加選句をしても前回の選評のままで良い方は今回は空欄にしてください。前回のものを採用します。全体を通じて新しく書きたい方は、今回の選句用紙に書いてください。選評が両方ある場合は、今回を優先します。

●第2回雑詠句会も、前回提出された方は今回は空欄にしてください。前回と今回の2回書かれている方は、今回を優先します。

●その他分からないことがあれば遠慮なく事務局にお問い合わせください。多くの会員の方にご迷惑をおかけしたこと、貴重な協会の経費を送料等で無駄に使ってしまったことに、心からおわび申し上げます。

令和4年 第2回雑詠句会

〈作品募集〉

※第2回雑詠句会作品を募集します。ひとり3句で協会未発表のもの。会員に限ります。

※年2回の雑詠句会と、8月募集の自薦作品の計10句が特別選者による年間一句賞の対象になります。（3回揃わなくても可）

※締切は令和4年5月11日（水）消印。

※今回は分かりやすいように、第1回雑詠句会の選句・選評の締切と同じです。

※同封の投句用紙を使い、お近くのコンビニからファックスしてください。ハガキやメール等でも受けつけ可。宛先は事務局まで。



大分県現代俳句協会

OITA-KEN GENDAI HAIKU ASSOCIATION

会長 有村 王志



《事務局》

〒879-7151 大分県豊後大野市三重町西泉436

足立 攝 方

TEL.&FAX. 0974-22-3749 郵便振替 01900-5-57481

URL:<http://www.gendaihaiku.net>

E-Mail: info@gendaihaiku.net

● 第32回大分県現代俳句大会では、昨年を上回る632句が寄せられました。お一人で10句以上を投句してくださった方もたくさんいます。会員の方に支えられて事務局が存立していることを実感しています。ありがとうございます。

● 先輩が後輩に親切に手ほどきする……これに当協会の気風にしていきたいと思っています。会員で添削やアドバイスをご希望の方は、ご自作の3句を添えて事務局にお申し込みください。締切はありません。